



**基本
理念**

高度で良質な医療を提供し、病む人々が安心して、信頼できる病院をめざします

永年勤続表彰



氏名：吉住 秀之

職名：院長

永年勤続表彰を受けて：過日開院当初から勤務していた九州医療センターから開院 30 周年記念の報せが届いたのに続き、今回 30 年の永年勤続表彰を受けたことで改めて今まで指導、支援していただいた人への感謝を感じています。定年目前ですが、これからも継続することの力を信じて勤務していきたいと思えます。



氏名：田中 久美

職名：看護部長

永年勤続表彰を受けて：振り返れば医療従事者として、人として、山あり谷あり、沢山の人の出会いと経験をさせていただきました。感謝と恩返しを忘れず、今後もできる限り尽力いたします。

氏名：千代森 夕子

職名：副看護部長

永年勤続表彰を受けて：表彰ありがとうございます。これまで支えてくれた多くの方々に感謝しかありません。これからも邁進して参ります。



氏名：矢山 貴文

職名：企画課長

永年勤続表彰を受けて：この度、永年勤続の表彰を受けることができ、大変光栄に思っております。皆様からの多大なるご支援をいただき、心より感謝申し上げますとともに、引き続きよろしくお願ひ致します。

氏名：石原 史絵

職名：教育主事

永年勤続表彰を受けて：永年勤続の表彰をいただきありがとうございます。

ご支援いただいておりますすべての皆様に感謝申し上げます。

学校職員からはセロトニン過剰症と言われますが、私らしく頑張っていきたいと思います。これからもどうぞよろしくお願いいたします。



氏名：庵原 貴子

職名：1病棟看護師長

永年勤続表彰を受けて：多くの方々との出会い、支えがありこの日を迎えることができました。感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。



氏名：福田 幸子

職名：3病棟看護師長

永年勤続表彰を受けて：ワークライフバランスを充実させながら働くことができた20年です。とても感謝しております。これからも頑張ります。



氏名：仁井田 康男

職名：地域連携室師長

永年勤続表彰を受けて：附属看護学校を含め、看護の道を歩み始めたこの都城医療センターで、20年永年勤続の表彰を頂けたことに感謝もひとしおです。今後も地域の皆さまのお役に立てるよう頑張ってお参ります。



氏名：今田 南生人

職名：教員

永年勤続表彰を受けて：皆様に助けられながら20年勤務しました。あっという間に時間は過ぎるので悔いのない日々を過ごしたいと思います。



氏名：永田 歩

職名：教員

永年勤続表彰を受けて：多くの方々の支えがあり、20年を迎えることができたと思っております。これまでご指導いただき、支えていただいた方々に感謝いたします。ありがとうございました。

氏名：河野 トモ子

職名：1病棟看護師

永年勤続表彰を受けて：20年表彰いただきありがとうございます。共に働いているスタッフの皆様のおかげです。これからも体調に気を付けながら頑張っていきたいと思います。よろしくお願いいたします。



氏名：吉留 真由美

職名：NICU看護師

永年勤続表彰を受けて：先輩方や同僚の皆様を支えられながら、これまで勤続できた事に感謝しています。今後も精進いたします。



氏名：落合 裕子

職名：NICU看護師

永年勤続表彰を受けて：皆様方に支えられ勤続20年を迎えることができました。これからも、体調に気を付けながら頑張っていきます。



氏名：古川 理沙

職名：GCU看護師

永年勤続表彰を受けて：ここまで勤続し続けられたのも、まわりの同僚や上司の方のおかげだと感じています。これからも精進したいと思います。



氏名：大川原 佳奈

職名：3病棟看護師

永年勤続表彰を受けて：辞めたい、辞めたいの毎日、これまで出会った多くの患者様、スタッフの皆様のおかげで今日まで耐えることができたものと感謝申し上げます。

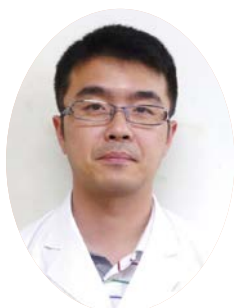


氏名：田中 祥子

職名：外来看護師

永年勤続表彰を受けて：表彰ありがとうございます。これからも日々成長していけるよう頑張っていきたいです。よろしくお願いいたします。

ロボット導入から2ヶ月で感じたこと



泌尿器科
山崎 丈嗣



今年度当院にダヴィンチ Xi が導入されました。私は鹿児島大学出身ですが、鹿児島県内で最近ロボットを導入された病院はダヴィンチ X を購入していたため、当院の規模で最も高価で操作性のよいダヴィンチ Xi が入ったことに驚き、責任を感じました。

令和6年5月9日ロボット支援前立腺全摘除術（RARP）の1症例目を施行しました。1例目開始前に鹿児島と福岡に合計4回実習に行きました。Xiのシミュレーターでのトレーニング20時間程度、オペ室の看護師も含めた導入のシミュレーションを2回、ビデオ学習も20～30時間程度と1例目までの1ヶ月は多忙を極めました。

1例目でまず覚えていることはロボットをドッキングさせるまでがまず一苦労でした。1時間くらいはかかったと思います。腹腔鏡手術を10年以上していたためカメラの距離感がなかなかつかめず、右手の2つの鉗子もうまく使えないなど難しいことばかりでした。手術も5時間半かかりなんとか終了できました。余談ですが、その日は夜11時から緊急手術があり3時までかかったため体力的に限界でした。

それから2ヶ月がたち、RARP13例、ロボット支援仙骨腔固定術5例を経験しました。最近の症例では2時間半を切るようになり、ようやくコツをつかんできた感じがします。RARPは泌尿器科医にとってロボット手術の登竜門ではありますが、根治性と機能性（尿禁制）のバランスをとらないといけない点が難しいです。腫瘍の局在、悪性度と患者様のADLを考え、それぞれに個別化した術式をプランニングします。機能を温存することに関してロボットはやはりさすがです。術後の尿禁制が腹腔鏡の頃よりいいと思います。腹腔鏡下前立腺全摘除は当院で750例施行しましたが、その手術で見えなかった解剖がわかるようになりました。今後もさらに症例を重ね、全国レベルの手術ができるよう努力したいと思います。



看護の日

令和6年5月

看護学校では『自分たちの生活を守る力』をテーマに看護の日の活動を実施しました。様々な災害が問題となっている昨今、地域で生活する人々に震災がもたらす健康上の課題を知り、看護の役割について考える機会としました。石原教育主事より「熊本地震での被災経験」について、そして当院の医療班として被災地での支援活動を実施された前村副看護師長より「令和6年能登半島地震における医療・看護の役割」についてご講義していただきました。災害時に周囲の人を気に掛けること、その人に寄り添うことの大切さを学ぶことができました。



さらに、3学年合同でグループを作り、災害時に地域で生活する人々を支えるための災害グッズを作成しました。

実際に災害が起きた時、どのような物品が必要か、身近にある材料で災害時に役立つものについてアイデアを出し合っていました。段ボールや新聞紙、ビニール袋などを使用し、簡易トイレやプライバシーに配慮した更衣場所、防寒具や赤ちゃんのオムツなど日常生活に欠かせないものを作ることができていました。

お着がえ用パーテーション



水を使わず再利用可能な簡易トイレ

連携医療機関のご紹介

医療法人啓仁会

城南病院

住所：〒885-0026 宮崎県都城市大王町 30-5

電話番号：(0986) 23-2844

診療科目：内科・外科・消化器科・循環器科

休診日：第2・4・5土曜日、日曜日、祝日



院長 松浦 眞路 先生



当院は昭和34年に父、松浦俊介により開業し、2024年6月より私、松浦眞路が院長を拝命致しました。開業時は小さな病院から始め、父の専門である胸部外科領域を中心とした外科疾患や、呼吸器疾患、塵肺症などの内科から耳鼻科、眼科領域まですべてを父、松浦俊介が担うような病院であり、皆様はそんな父を「大（おお）先生」と慕って下さりました。そんな父も、もう98歳となり、医師という仕事からは離れてしまっておりますが、そんな父を知る昔からの患者様は「大先生は元気ですか？」と今もなお慕ってくれております。私は主に内科を中心とした疾患を担当しておりますが、今も慕われる父を尊敬するとともに、城南病院の名に恥じないようにと、日々精進に努めております。

当院は外来、一般病棟、療養病棟で構成されており、外来においては一般内科外来を中心に、専門外来（循環器科、消化器内科、糖尿病科、放射線科、外科）と健診（企業健診、一般健診、特定健診）を行っております。また睡眠時無呼吸症候群に関しての外来も開設しております。専門外来では胃カメラ、大腸カ

メラ、腹部・乳腺・甲状腺エコー、心臓エコーの検査のほか、最新のCT検査機器による画像検査と放射線科専門医による精密な読影による病変の早期発見にも力を入れております。これらの検査に加え、健診では胃のバリウム検査も行っております。

一般病棟では一般的な急性期疾患の入院に加え、内視鏡的大腸ポリープ切除や睡眠時無呼吸症候群検査の短期滞在入院も行っております。療養病棟においては難病疾患や慢性呼吸不全、癌の終末期、認知症末期などの患者様をお受けしており、内視鏡的胃瘻造設術も行っております。

当院は愛を第一の動機として、人間が人間らしく、人間の尊厳を生きられるような21世紀医療を目指すことをモットーに、患者様の社会復帰の促進と社会経済活動への促進の支援に尽くしております。患者様により良い医療とケアを提供できるよう2007年より日本医療機能評価機構の認定にチャレンジし、2007年より2024年現在まで認定継続を維持しております。

地域医療を行うにあたり都城医療センターを始めとする高次医療機関との連携は重要であり、さらに病院間での医療の連携は継ぎ目のないものであることが重要と私共は考えております。

患者様に安心して安全な、より良い医療を迅速に提供できることを目標に、地域の方々の健やかな人生に少しでも貢献できる病院を目指し、これからも努力して参りますので、どうぞ当院をよろしくお願い致します。

「メディカルキッズ医療体験ツアー」を開催して

令和6年8月1日、地域の中学生を対象にメディカルキッズ医療体験ツアーが開催されました。新型コロナウイルス感染症第11波の影響が懸念されましたが、16名が元気に参加してくれました。体験ツアーでは、医療従事者をイメージしやすいようユニフォームを着用しての体験としました。人気のあった体験内容は、「新生児看護体験」、「内視鏡操作体験」、「採血体験」でした。他には、「BLS訓練」、「調剤体験」、「縫合体験」等を行いました。普段の生活では体験できない内容ばかりで緊張の中にも生き生きとした表情が印象的でした。昨年度に引き続き、昼食は患者と同じ病院食を同じ容器で体験してもらいました。量が多いと言いつつも綺麗に完食している中学生がほとんどでした。今回の体験を通して、医療に対する関心がさらに深まったとの意見もあり企画した私達も満足することができました。体験した中学生のみなさんが、これから職業選択をしていく中で医療職が1つの候補になることを期待したいと思います。

(教育・研修部 看護師長 和氣美紀)



新生児看護体験



内視鏡操作体験



採血体験



車いす・高齢者体験



BLS 体験



顕微鏡体験



調剤体験



縫合体験